

分 か る と 快 感 !

# Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

## 明治時代、小学校に通っていた子どもはどれくらいいたの？

(京都大学 2013年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

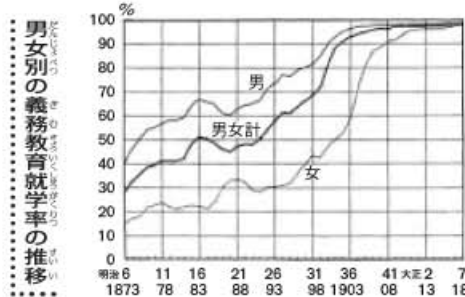
これまでの内容も掲載しています!

明治時代の初等教育について、制度がどのように作られていったのか、法律の変遷や男女の就学率に触れながら、説明しなさい。

「初等教育」とは現代の小学校にあたるものです。今回は、日本の小学校制度がどのように整えられたのか、見ていきましょう。

### 高い授業料が負担に

明治時代の初め、政府は「国民皆学(国民全員が学校に行けること)」をめざし、制度を整えましたが、就学率(学校に通う人の割合)はなかなか上がりませんでした。男子に比べて女子の就学率はさらに低いものでした。



文科省「日本の成長と教育」

就学率が上がらなかった原因は、学校の授業料にありました。明治時代初期には、学校の授業料は各家庭で負担するものとされていましたが、その金額は当時の一般的な家庭の収入に比べて、かなり高額なものだったのです。そのため、就学率は思うように振るわず、家庭内でも男子を優先して学校に通わせる傾向にあったため、女子の就学率はさらに低かったのです。

そこで、政府は方針を見直し、義務教育の明



イラスト：瑞木匠

その後、国際情勢が変動するにつれ、ほかの国と戦争をすることも増えていきました。その中で、国のために働く、国の方針に賛同する国民を育てることが急務になり、就学率向上に本格的に取り組むようになったのです。

### 世界と比べると

グラフを改めて見てみますと、就学率が100%に近づいたのは明治の末でしたが、明治初期の段階で、すでに一定の就学率があったこともわかります。

江戸時代まで小学校は存在しなかった日本ですが、江戸時代の庶民の識字率(文字を読み書きできる能力を持った人の割合)は、実は当時の世界でトップクラスだったといわれています。江戸時代には「寺子屋」と呼ばれた塾があり、そこで「読み・書き・そろばん」という基本的な学習内容を習得する人がほとんどでした。そのため、学校が設立された際にも、費用面以外は抵抗感なく、庶民に受け入れられたでしょう。

【Z会・河原井彩】

## 国が方針転換

確化や授業料の無償化を行いました。すると、就学率は順調に伸び続け、大正時代までには男子・女子ともにほぼ100%にまで達しました。

### 役に立つ国民を育てるため

明治政府にとって、産業の発展を支える働き手としての国民を育てることは国としての大事な課題でした。そのため、明治時代になってからは早速制度を整備したのですが、当初は政府もお金がなく、教育の無償化までは踏み切れませんでした。

### ！今回の教訓

国の教育制度には、その国がどのような人を育てたいと思っているかが表れます。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。